

通し番号	4 6 5 5
------	---------

分類番号	25-25-13-02
------	-------------

クロラントラニリプロール・チアメトキサム水和剤（ジュリボフロアブル）のキャベツ播種時地床灌注によりネギアザミウマおよびハイマダラノメイガを効果的に防除できます

[要約] クロラントラニリプロール・チアメトキサム水和剤（ジュリボフロアブル）を播種時に地床灌注処理することで、キャベツ育苗時から生育初期に問題となるネギアザミウマおよびハイマダラノメイガを効果的に防除できる。

神奈川県農業技術センター・生産環境部・病害虫研究課 連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

近年、神奈川県内でキャベツの育苗中にネギアザミウマによる被害は甚大であり、対策が苦慮されている。一方、ハイマダラノメイガはキャベツの育苗期から生育初期に発生し、防除対策をとらないと枯死や結球不良など壊滅的な被害を及ぼす。特に地床育苗が主流となっている三浦半島地域では、これら害虫に対する育苗期間中の効果的な防除対策が急務となっている。ネギアザミウマの防除対策として、薬剤の灌注処理は非常に効果的な手段であり、特にクロラントラニリプロール・チアメトキサム水和剤の処理は高い防除効果を示す。また、本剤はチョウ目害虫に対して長期間卓効を示すことから、本剤の播種時地床灌注処理によるネギアザミウマ及びハイマダラノメイガに対する防除効果を検討し、農薬登録に資する。

[成果の内容・特徴]

- 1 クロラントラニリプロール・チアメトキサム水和剤の播種時地床灌注処理はネギアザミウマに対して、処理28日後まで、無処理と比較して幼虫および成虫いずれに対しても高い防除効果を示す（表1）。
- 2 本剤の本処理はハイマダラノメイガに対して、処理21日後（移植直前）においても発生が見られず、無処理と比較して高い防除効果を示す（表2）。
- 3 さらに、本圃移植12日後（処理33日後）まで、防除効果を示す（表2）。
- 4 上記結果から本剤の本処理はネギアザミウマ及びハイマダラノメイガに対し、育苗から生育初期の間、高い防除効果が維持される。

[成果の活用面・留意点]

- 1 今回のデータを基に播種時地床灌注処理がキャベツのネギアザミウマ及びハイマダラノメイガに対して、2013年10月9日に農薬登録された。
- 2 播種時地床灌注処理(1000倍希釈液、2L/m²)を行うことでネギアザミウマ及びハイマダラノメイガの育苗期間中の同時防除が可能である。
- 3 ハイマダラノメイガでは本圃移植後約2週間の防除が可能である。
- 4 本剤の播種時地床灌注処理はキャベツのネギアザミウマとハイマダラノメイガ以外にアブラムシ類、コナガ、ハスモンヨトウにも登録がある。
- 5 ラベルに記載された安全使用基準を守り、正しく使用する。

[具体的データ]

表1 クロラントラニプロール・チアメトキサム水和剤のネギアザミウマに対する防除効果

供試薬剤 (農薬名)	処理方法	10株あたりのアザミウマ類寄生虫数								
		処理15日後 (5/11)			処理21日後 (5/17)			処理28日後 (5/24)		
		幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計	幼虫	成虫	計
クロラントラニプロール・ チアメトキサム水和剤 (ジュリホフロアブル)	1000倍 希釈液 2L/m ² 播種時 地床灌注	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	2.5	0.1	28.4	28.5
		密度指数	-	0.0	0.0	0.0	7.8	7.6	0.3	19.4
無処理		0.0	0.1	0.1	1.2	31.9	33.1	30.1	146.4	176.5

$$\text{密度指数} = \frac{100 \times \text{処理区の密度}}{\text{無処理区の密度}}$$

表2 クロラントラニプロール・チアメトキサム水和剤のハイマダラノメイガに対する防除効果

供試薬剤 (農薬名)	処理方法	20株あたりの寄生虫数および被害度							
		処理21日後 (移植直前)		処理28日後 (移植7日後)		処理33日後 (移植12日後)		処理46日後 (移植25日後)	
		虫数 ^Z	被害度	虫数 ^Z	被害度	虫数 ^Z	被害度	虫数 ^Z	被害度
クロラントラニプロール・ チアメトキサム水和剤 (ジュリホフロアブル)	1000倍 希釈液 2L/m ² 播種時 地床灌注	0.0	0.0	0.3	6.7	2.0	13.4	5.7	43.3
		密度指数	0.0		4.8		35.1		-
		被害度防除価		100		89		81	
無処理		11.7	31.7	6.3	59.4	5.7	68.9	0.3	93.9

Z: 若齢、中齢、老齢虫の合計数

$$\text{被害度防除価} = 100 - \frac{100 \times \text{処理区の被害度}}{\text{無処理区の被害度}}$$

[資料名] 平成 23 年度神奈川県農業技術センター試験研究成績書(農業環境)、平成 24 年度神奈川県農業技術センター試験研究成績書(三浦半島地区事務所)、平成 25 年度神奈川県農業技術センター試験研究成績書(生産環境)

[研究課題名] 診断・同定及び防除対策の確立

[研究期間] 平成 23~25 年度

[研究担当者名] 大矢武志・川田祐輔・植草秀敏